

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

「ICカード読取りエラー時の取引続行」システム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、先進国を含めた世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。その目標達成に向けて、民間企業の技術やイノベーション力を積極的に役立てていくことが強く求められています。富士通グループは、かねてより、共創を通じて持続的に社会にインパクトを与える成果を生み出す、「ヒューマンセントリック・インテリジェント ソサエティ」の実現を目指して、テクノロジーを活用するとともに新たなイノベーションを創造してきました。この活動と、国際社会がSDGsの達成に向けて取り組む方向性は、一致していると認識しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs)を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>



「ICカード読取りエラー時の取引続行」システム

- 「ICカード読取りエラー時の取引続行」システムは、ATMにてICカード挿入時にカードの磁気ストライプ部の読み取りエラーとなった場合に、ICチップ内のカードデータを読み取ることで取引を継続させるシステムです。
- 従来ではICカードの磁気ストライプ部の読み取りエラーが発生した場合は、窓口にて再発行手続きを行っていましたが、本システムにより窓口に出向かずに取引が継続できるため、窓口業務の効率化（処理時間の短縮）などをCO₂排出量として評価しました。

「環境貢献ソリューション」認定商品を拡大し、SDGsへ貢献します。

- 「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



「ICカード読取りエラー時の取引続行」システムによる窓口業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「ICカード読取りエラー時の取引続行」システムを導入することで、顧客の利便性向上と窓口業務の効率化を実現します。従来、ATMにてICカードの磁気ストライプ部の読み取りエラーが発生した場合は取引が中断され、顧客にそのICカードを窓口まで持参いただき、窓口にてICカードの再発行手続きを行っていました。「ICカード読取りエラー時の取引続行」システムでは、磁気ストライプ部の読み取りエラーが発生した場合は、取引を中断せず、ICチップ内のカードデータを読み取ることで取引を継続させることが可能であるため、窓口業務の負担軽減や、再発行手続きに必要な伝票の削減が図れます。顧客にとってはICカード読取りエラーとなっても窓口に出向く必要がなくなるため、利便性が向上しています。

この取組により、伝票枚数削減によるペーパーレス効果は勿論のこと、顧客の銀行滞在時間が短くなることから、エアコンなどの空調機器の省エネが図れます。

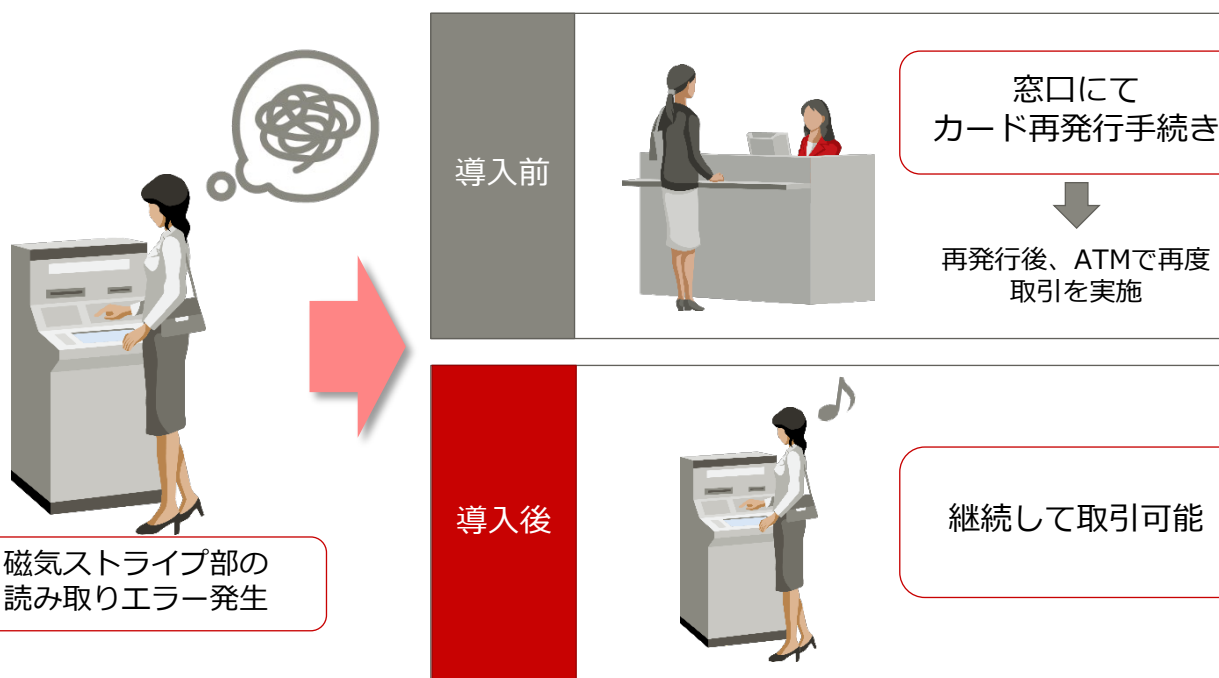
効果

- ・ CO₂排出量の削減効果：約50% ※富士通フロンテック試算
- ・ 伝票枚数の削減 : 約50%削減
- ・ 窓口業務時間の削減 : カード再発行手続きが必要なケースが約50%減少
- ・ 顧客の待ち時間の短縮
【導入前】窓口でのカード再発行手続き：約15分
【導入後】0分（待ち時間なし）
- ・ ICT機器消費電力の削減 : 約60%削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、お客さまの運用状況などにより結果が異なることを予めご承知おきください。

「ICカード読取りエラー時の取引続行」システムの導入によって、何故、窓口業務の負担が軽減するのか？

- ① ICカードの磁気ストライプ部の読み取りエラーが発生した場合、ICチップ内カードデータを読み取って取引を継続します。
- ② ICカードの読み取りエラー発生によるカード再発行手続きが減少するため、窓口業務の負担が軽減します。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社
ファイナンス&リテール事業本部 第一ソリューション事業部
Webによるお問い合わせ：<https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>